

〈あらすじ〉最愛の妻エウリヂケを失ったオルフエウスは妻を生き返らせるべく、神アモオルの「妻の顔を見ずに黄泉の国から救い出せば現世に戻れる」とのお告げにより黄泉へ向かう。オルフエウスは無事エウリヂケを黄泉の国で救い出したが、理由も告げずに自分の顔を見ようとしないオルフエウスにエウリヂケは嘆き悲しむ。悲しみに暮れるエウリヂケに堪えきれず、ついにオルフエウスは掟を破ってエウリヂケの顔を見てしまうのであった…。



オルフエウス
青木洋也



エウリヂケ
橋爪ゆか



アモオル
森美代子



舞踊統括
花柳寿美



長岡京室内アンサンブル音楽監督
森悠子



指揮
鈴木優人



演出・舞台美術・衣裳デザイン
渡邊和子



美術監督
瀧井敬子

森嶋外生誕150年記念合唱団メンバー

ソプラノ	アルト	テノール	バス
柏原奈穂	遠藤亜希子	石川洋人	新見準平
金持亜実	田村由貴絵	鏡 貴之	藤井大輔
清水 梢	前山依加	谷口洋介	渡辺祐介
緋田芳江	渡邊智美	藤井雄介	

合唱 (各パート五十名程)
指揮 根本卓也
コレペティートル 野澤知子



本公演について

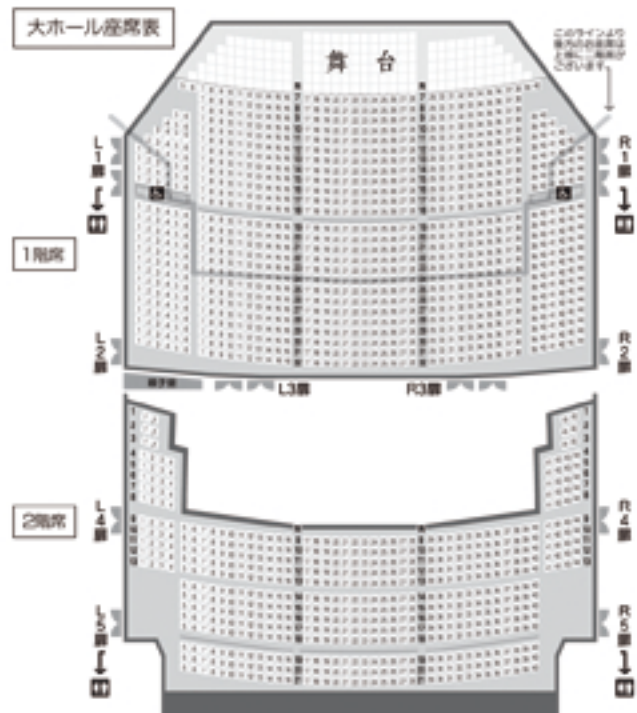
1914(大正3)年は、第一次世界大戦が勃発した年です。森嶋外52歳。陸軍省の軍医として最高の地位にあったばかりか、ゲーテの『ファウスト』の「帝國劇場」公演が成功して、文化・芸術界で押しも押されぬ存在になっていました。

一方、今日『青い眼の人形』『七つの子』など童謡の作曲家として知られる本居長世は、当時まだ29歳。意気軒昂と仲間たちに声をかけ、オペラ史のなかでも重要な18世紀の作曲家グルックの代表作『オルフェオとエウリディーチェ』を、日本語で舞台上演しようと計画したのです。1914年はグルック生誕200年にあたっていました。本居たちが翻訳を依頼したのは、ことあるうに森嶋外。若者からの依頼を快諾した嶋外は、タイトルを『オルフェウス』と改め、オペラの原曲の内容と音節数をみごとに一致させ、全幕を取るように翻訳したのです。

本公演では、長年ヨーロッパで活躍されている渡邊和子氏に演出・舞台美術・衣裳デザインをお願いしました。踊りは創作日本舞踊の花柳寿美氏にユニークな世界を創り出していただきました。

また本公演では、グルックが生きた時代の演奏法の魅力をたっぷり感じることができます。主役のオルフェウスはカウンターテナー界のスター、青木洋也氏。エウリヂケ役の橋爪ゆか氏とアモオル役の森美代子氏は、東京二期会の俊英です。管弦楽は森悠子氏が音楽監督をつとめておられる、「長岡京室内アンサンブル」に若手管楽器奏者を加えた新体制で臨みます。指揮は、いま最も囑望されている音楽家の一人、鈴木優人氏です。

嶋外、その知の発信拠点、文京区で生誕150年を寿ぐことができるのは、奇き喜びです。
芸術監督: 瀧井敬子



シビックホールメンバーズ募集中
チケット先行発売あり！
インターネット限定で入会金・会費は無料
詳しくはホームページへ
<http://b-civichall.pia.jp/>

文京シビックホール
〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21
文京シビックセンター1F
●交通アクセス
東京メトロ丸の内線「後楽園」駅より直結
都営地下鉄三田線「大江戸線」春日駅より直結
京中央線武蔵「水道橋駅」より徒歩約10分